

情報ライブラリー本館 11-12月特集展示 芭蕉(その師匠北村季吟)

No.	書名	編著者名	請求記号	普段並んでいる場所	内容紹介	資料 I D	ISBN
1	北村季吟伝 (近世文芸研究叢書 / 近世文芸研究叢書刊行会編 ; 第1期文学篇16. 作家 ; 2)	石倉重継著	910.2/1767/Cu1(16)	本館 1階9門	三松堂松邑書店明治31年刊の複製	G1052653	
2	季吟本への道のり : 北村季吟古注釈集成解説	野村貴次著	910.81/269/Cu別1	本館 1階9門		G1119227	4787910523
3	芭蕉 : 俳聖の実像を探る	田中善信著	081/1403/Cu18	本館 1階集密一般	後世の人びとに「俳聖」と呼ばれ、神とまであがめられた俳人、松尾芭蕉。実際には、どのような生涯を送ってきたのだろうか。出生から少年期の環境、そして、晩年の芭蕉が到達した価値観と、その形成に大きな影響を与えた人物との出会いに至るまで、作品だけではなく伝わる「人間芭蕉」の素顔を探ります。	G1125742	9784787961181
4	芭蕉 : その鑑賞と批評	山本健吉著	911.46/463/Cu	本館 1階9門	本書は、1957年新潮社より刊行された「芭蕉—その鑑賞と批評(全)」の旧字旧かなを現代の表記に直して改めて刊行するものです。新潮文学賞・芸術院賞を受賞した本書は山本健吉氏の仕事の中でも一つの大きな山をなす作品です。	G1107434	4752220482
5	江戸の俳壇革命 : 芭蕉から蕪村登場	楠元六男著	081/1121/Cu47	本館 2階叢書	新天地の江戸にやってきた芭蕉は、宗匠という指導者になったにもかかわらず、即座にその仕事を放棄し、深川に隠棲してしまう。はたして、その原因は何だったのか。芭蕉が活躍し、蕪村が登場するまでの江戸俳壇は、まさに下克上の時代。内藤家に代表される大名家の文化サロン、江戸と地方という俳壇の対立構造、江戸の宗匠たちの組織を崩壊させた『五色墨』の存在、江戸の札差・大口屋治兵衛らいわば素人俳人たちの活躍など、元禄から享保末期までの江戸俳壇を追い、変革の時代をとらえ直す。	G1133064	9784047021471
6	松尾芭蕉と奥の細道	佐藤勝明著	911.46/537/Cu	本館 1階9門	古い俳諧の世界に新風を吹き込んだ松尾芭蕉。『猿蓑』などの作品集を生み出し、進化と深化を追い続けた生涯を辿る。『細道』創作の意図を探り、日光・奥州・出羽・北陸へと魅力あふれる旅路へ誘う。西村本全文も付す。	G3010151	9784642067850
7	悪党芭蕉	嵐山光三郎著	911.46/469/Cu	本館 1階9門	弟子は犯罪者、熾烈な派閥抗争、句作にこめられた危険な秘密…。 “俳聖” 松尾芭蕉のペールを剥ぐ力作。	G1108266	4103601043
8	芭蕉という修羅	嵐山光三郎著	911.46/549/Cu	本館 1階9門	「俳聖」の本業は、凄腕の水道工事請負人だった！芭蕉の人脈と金脈を明らかにする決定版評論。	G3020175	9784103601067
9	芭蕉 : 「かるみ」の境地へ	田中善信著	080/33/Cu2048	本館 2階新書	古典文学の名作に数えられている『おくのほそ道』だが、芭蕉にとって紀行文を書くことは趣味であり、修練の一つであつたにすぎない。芭蕉は、「俗」を対象とする俳諧を、和歌や連歌と同等の文学に高めることに苦心したが、生前それが叶うことはなかった。本書は俳諧師の名乗りをあげた『貝おほひ』以降の作品を丹念に読みながらその足跡を追い、「俳聖」としてではなく、江戸を生きた一人の人間としての実像を描く。	G1131571	9784121020482
10	芭蕉の風雅 : あるいは虚と実について	長谷川權著	080/135/Cu121	本館 2階叢書	古池の一句で蕉風を揺るぎないものとし、「おくのほそ道」において「かるみ」という人生観に至った芭蕉はその後、さらに高く飛翔して風雅の世界に遊ぶ。芭蕉にとって風雅とは、いかなる境地であつたのか。みずからの真骨頂と自負した蕉門歌仙を深くたずね、「虚に居て実をおこなふ」芭蕉の核心に迫る。	G3018119	9784480016270
11	奥の細道 : 芭蕉自筆	松尾芭蕉著 上野洋三、 櫻井武次郎 校注	081/999/Cu黄206(11)	本館 2階文庫	江戸中期より行方知れずであつた『奥の細道』の自筆草稿本の存在が一九九六年に公表された。約七十九所の貼紙といった夥しい推敲跡をとどめた本文を精細に再現。新たな『奥の細道』への旅にいざなう一冊。	G3020131	9784003510247
12	おくのほそ道	松尾芭蕉 [著] ; ドナルド・キーン 訳 ; 宮田雅之 切絵	911.46/401/Cu	本館 1階9門	ドナルド・キーンの名訳と宮田雅之の刀の冴えによって甦る俳聖芭蕉の寂の世界。	G2004357	9784770020284
13	奥の細道 : 現代語訳・鑑賞	山本健吉著	911.46/545/Cu	本館 1階9門	芭蕉に執念した山本健吉ならではの「奥の細道」現代語訳と鑑賞を堪能して下さい。さらに究極の芭蕉評論「軽み」の論も収載しました。	G3019219	9784752220565

情報ライブラリー本館 11-12月特集展示 芭蕉(その師匠北村季吟)

No.	書名	編著者名	請求記号	普段並んでいる場所	内容紹介	資料 I D	ISBN
14	『おくのほそ道』時空間の夢	堀切実著	081/1121/Cu39	本館 2階蔵書	四〇〇字詰め原稿用紙にしてわずか四〇枚ほどの『おくのほそ道』はどういう点で日本を代表する名作といえるのか。それを探るために、文学としてのアプローチをはじめ、史学・民俗学・宗教学・認知科学などの成果を取り入れ、漂泊観・文学空間をキーワードに広く文化史的にこの作品を分析する。連句の展開との相似という視点では“曖昧の美学”の追究、“意味の焦点”の連続性を提示し、外国文学や映像文化などとの比較文化論の観点からは“漂泊遍歴民”ではない“遍歴遊行民”としての芭蕉を浮き彫りにするなど、さまざまな方法を通して、『おくのほそ道』は日本人の精神の基本にかかわる言語空間である、ということを明らかにする。	G1122411	9784047021396
15	完全版おくのほそ道探訪事典：『随行日記』で歩く全行程	工藤寛正著	911.46/523/Cu	本館 1階9門	142日600里(約2400km)の旅を寄泊地などで94項に分ち、各地の歴史・史跡・句碑、ルートなど万般を600点余の写真と地図を交えて詳解。項ごとに「おくのほそ道」「随行日記」の原文と現代訳を配した、完全版ほそ道案内事典。	G3000497	9784490108002
16	奥の細道なぞふしぎ旅〈上巻〉	山本鉦太郎著	911.46/353/Cu上	本館 1階9門	本書は芭蕉の生涯と旅に関して百力条のなぞを提出し、著者の体験にもとづいて、従来の諸説を検討し、懇切に解明。	G1060561	4404023367
17	奥の細道なぞふしぎ旅〈下巻〉	山本鉦太郎著	911.46/353/Cu下	本館 1階9門	本書は芭蕉の生涯と旅に関して百力条のなぞを提出し、著者の体験にもとづいて、従来の諸説を検討し、懇切に解明。	G1060562	4404024037
18	奥の細道を歩く(楽学ブックス；. 文学歴史；2)	関屋淳子監修	911.46/499/Cu	本館 1階9門	芭蕉が辿ったコースを詳細な解説と現況写真入りで紹介し、実際に追体験できる手軽なガイド。	G1126669	9784533073724
19	手にとるように「おくのほそ道」がわかる本：芭蕉と日本を巡る旅に出よう!	長尾剛著	911.46/391/Cu	本館 1階9門	江戸の隅田川を舟で旅立ってから美濃の大垣に到着するまで約5か月、全行程約600里に及ぶ大旅行。本書では、豊富な図表と易しい解説文で原文を解説すると共に、芭蕉を巡る様々な謎に迫る。	G2001633	476126022X
20	おくのほそ道の旅	萩原恭男、 杉田美登著	081/1367/Cu[体]390	本館 2階新書	江戸時代、旅は苦しいものであった。そろそろ老境にさしかかろうという芭蕉は、なぜ半年にもわたる長旅に出たのだろうか。その旅はどのようなものだったのだろうか。不朽の名作に描かれた旅の跡を、長時間をかけて自らの足でたどった芭蕉研究の第一人者が、豊富な考証とともに解説する「おくのほそ道」の旅。	G1115806	4005003907
21	「奥の細道」の謎：芭蕉と戸田家の人脈	戸田徹著	914.6/29/Cu	本館 1階9門	歴史的事実はデータやエビデンスによってきちんと後世に継承されなければならないとする著者が、芭蕉の「奥の細道」のいくつかの謎を、歴史の背景を探り、史資料を渉猟しつつ解明に取り組み新たな解釈を呈示する。	G1105629	4805741414
22	超訳芭蕉百句	嵐山光三郎著	081/1335/Cu16 81	本館 2階新書	いまや日本の誰もが知っていて、神格化すらされている俳聖松尾芭蕉。だが、その実像を我々は本当に知っているのだろうか。『悪党芭蕉』『芭蕉という修羅』などの一連の芭蕉評論で、これまでに知られてこなかった芭蕉の姿を描き出した著者が、代表句百句を選びすぎり、タブーとされてきた衆道の側面や隠密としての行動を明らかにしつつ、虚実が分かちがたく絡み合う芭蕉の俳句ならではの魅力を探る。著者一流の独特な視点と軽妙な文体による「超訳」によって松尾芭蕉の実像に迫る。	G3033429	9784480074812
23	芭蕉のあそび	深沢真二著	081/D1265/Cu1 949	本館 2階新書	俳諧の本分は、たわむれ、滑稽にある。蕉風の確立のもとで、俳聖と称された芭蕉もまた、言葉の力によって、人びとに笑いをもたらすことに苦闘した俳諧師であった。青年期から晩年に至る様々な発句を読み解きながら、「じゃれ」「もじり」「なりきり」などの技法に込められた、芭蕉俳諧の〈あそび〉の精神とその魅力に迫る。	G3033901	9784004319498
24	芭蕉紀行文集：付嵯峨日記	松尾芭蕉著 中村俊定校注	081/999/Cu黄 206(1)	本館 2階文庫	人生の本質を無常・流転に見た芭蕉の芸術と生涯はいくつかの旅を展開点として飛躍を遂げてゆく。肉体と精神を日常性の停滞から解放し、新たな発見に直面させてくれるもの、それは旅であり、芭蕉の人生観・芸術観の具体的吐露が紀行文であった。本書に収めた諸紀行文は『奥の細道』という高峰に至る道標とも言えるであろう。	G3032995	4003020618

情報ライブラリー本館 11-12月特集展示 芭蕉(その師匠北村季吟)

No.	書名	編著者名	請求記号	普段並んでいる場所	内容紹介	資料 I D	ISBN
25	芭蕉最後の一句：生命の流れに還る	魚住孝至著	080/135/Cu25	本館 2階叢書	旅に病んで夢は枯野をかけめぐる一松尾芭蕉、最後の句として知られる死の四日前深夜の「病中吟」である。日々旅にして旅を栖とした俳聖の、最期のイメージに相応しい。けれども実はその翌朝、弟子二人を枕頭に呼び「清滝や波に散り込む青松葉」を遺している。「改作」というのだが、これこそが辞世の句である。「不易流行」「軽み」そして最後の一句へと、境涯深まる芭蕉最晩年の五年半に焦点を当て、その実像に迫る。	G1141003	9784480015273
26	芭蕉歳時記：豎題季語はかく味わうべし	復本一郎著	081/809/Cu117	本館 2階叢書	移ろいゆく日本の四季の、息をのむ美しさ。その繊細なイメージを、和歌以来の伝統にたたる「豎題季語」。芭蕉はこの伝統の上に、いかに新たな美を生みだしたのか。「鶯」「春雨」「蛭」「紅葉」など代表的季語60で味わう、俳聖の豊饒な宇宙。	G1013616	4062581175
27	芭蕉の人情句：付句の世界	宮脇真彦著	911.46/501/Cu	本館 1階9門	人物や心情を詠んだ句を、連句では「人情句」と呼ぶ。連句は、四季の変化をはじめ森羅万象を詠み込んで、叙景句・人情句を取り混ぜながら多彩な世界を作り出していく。優れた叙景句が多く、自然詩人として知られる芭蕉には、また一方、連句の人情句という、人間を犀利に見つめ、多彩な人々の姿をリアルに捉える世界があった。人情句を通して語る、芭蕉のもう一つの詩世界への案内書。	G1126745	9784047034334
28	俳句のきた道：芭蕉・蕪村・一茶	藤田真一著	081/1367/Cu940	本館 2階新書	今につながる俳句の歴史の流れをつくった江戸時代の三俳人、芭蕉・蕪村・一茶。かれらは仲間たちとともに、伝統を大切にしながら、つねに新しい表現に挑戦しつづけてきました。個性ゆたかな俳人たちはどのように生き、何をめざしたのでしょうか？名句・名言をたっぷり楽しみながら、俳句のこころにふれてみましょう。	G3031036	9784005009404
29	「曾良旅日記」を読む：もうひとつの『おくのほそ道』	金森敦子著	914.6/49/Cu	本館 1階9門	距離、時間、番所、地方俳人の動向をキーワードに、曾良の“旅日記”を克明に検証し行間から推理しつつ、文学作品として書かれ再構成された『おくのほそ道』からは知ることのできない芭蕉の旅の真実に迫る。	G3006864	9784588325076
30	旅人・曾良と芭蕉	岡田喜秋著	911.46/307/Cu	本館 1階9門	『おくのほそ道』の随行者として知られる曾良は芭蕉におとらず旅好きで健脚家であった。峠で客死した謎の多い〈旅びと・曾良〉の生涯を描いた初の本格的評伝。	G1060521	4309007252
31	江戸の旅を読む	板坂耀子著	914.6/23/Cu	本館 1階9門	花見・参詣・公務・遊学、あるいは名所図会や地誌などの紀行文。江戸の人々は、何を見つめ、何を思い、何を書き残したのか。江戸のまなざしのゆくえ。	G2003638	4831510106
32	江戸の女子旅：旅はみじかし歩けよ乙女	谷釜尋徳著	383/2323/Cu	本館 1階3門	近世後期に大流行した旅は歩くことがメインであったため、旅する女性たちが辛い目に遭うこともありました。その女子旅を安全で快適にしたものは何だったのでしょうか。また、旅費をかけて楽しんだお買い物、名所めぐり、グルメなどを通じて、活発な江戸の女性像を描いてみましょう。	G3035813	9784771037007
33	歴史を動かした人物はどのように歩き、旅をしたのか	谷釜尋徳著	383/2249/Cu2	本館 1階3門	江戸の人びとは、現代人では考えられないほどの健脚を誇り、全国各地を歩きまわる旅を愛していました。それでは、歴史に名を残した人物たちは、どれだけの歩行能力があり、どのような旅に出たのでしょうか。行く先々で遭遇した困難や人との出会いはどのようなものだったのでしょうか。松尾芭蕉、伊能忠敬、吉田松陰、清河八郎、勝小吉の「歩く旅」に着目することで、新たな歴史像を解明します。	G3035785	9784771036840
34	江戸の旅行の裏事情：大名・将軍・庶民それぞれのお楽しみ	安藤優一郎著	383/2291/Cu	本館 1階3門	「旅行ガイドブック」を開いて、心うきうきと「買い物は何を？芝居とのパッケージツアーはどう？」これは江戸時代の庶民の姿。江戸中期、元禄年間から一大旅行ブームがわき起こった。成田ハ伊勢へ善光寺へ、熱海・箱根の温泉へと庶民男女が繰り出した。武士や公家、大名、将軍はかなり可哀そう。現代人もナットクの旅行エピソードと、その背景を解き明かす。	G3032059	9784022951427